

千葉地区の組合員さんへ 催し物のご案内

被ばく予防セミナー@松戸

「放射線被ばくから子どもたちを守るために」

【主催】NPO法人セイピースプロジェクト



【日時】2011年7月18日(月・祝) 15:30~17:45

(15:00開場) ※終了後、懇親会を予定。

【講師】

黒部信一さん

(チェルノブイリ子ども基金医療顧問)

【会場】松戸市民会館 301会議室

住所:千葉県松戸市松戸1389-1 Tel:047-368-1237

アクセス:JR常磐線・新京成電鉄「松戸駅」東口より徒歩約7分

小児科医の黒部先生は、チェルノブイリ子供基金の医療顧問をされており、4月に常総生協も加わって発足させた「母乳調査・母子支援ネットワーク」の発起人のお一人で、たいへん丁寧でやさしい先生です。

常総生協でも黒部先生をお呼びして講演会の予定し準備をしておりましたが、今回、NPOセイピースPJの水野さん(一橋大の学生さん)から松戸で黒部先生のセミナー開催のご連絡を頂きましたのでご案内します。ぜひお話を聞いてみて下さい。(大石)

【ご案内】

福島第一原発の事故によって、大量の放射性物質が環境中に放出され、大気・土壌・海が広範囲にわたって汚染されました。放射性物質は風・雲に乗って拡散し、福島だけでなく、関東にも高い放射線量が観測される、いわゆる「ホットスポット」を作り出し、私たちの日々の生活を一変させてしまいました。私たちは、これから長い間、放射能と向き合って生きていかなければなりません。

最近、福島や関東では被ばく症状と思われる「鼻血」や「下痢」をおこす子どもが増えているという情報もあります。水や食物は大丈夫なのか、子どもに外遊びをさせてよいのか、これから始まる夏休みをどう過ごしたら良いのか

、などの不安や悩みを抱えている方も多いのではないのでしょうか。

そこで、このたび小児科医であり、内部被ばくの問題にも取り組んでいらっしゃる黒部信一先生をお招きして、放射線被ばくの問題や予防法について分かりやすく学ぶとともに、参加者同士で日常生活や子育てのことについて話し合い、交流するセミナーを、ホットスポットになっていると言われる千葉県松戸市で開催することにしました。

小さなお子さんをお持ちの方、おなかに赤ちゃんをかかえた方、セイピースの活動に興味がある方をはじめ、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

NPO法人セイピースプロジェクト

福島いわき、北茨城市、高萩市のお母さんと(母乳調査・母子支援ネット)

6/29 放射能と母子講座 in 高萩

6/29、福島県いわき市~高萩市のお母さんが集まって、母乳の検体の提出とあわせて放射能汚染と母乳育児について、食事の注意や元気に免疫力をつけることなどの懇談会に伺いました。

母乳育児・母子支援ネットで、事故直後にたいへん放射線量の高かった高萩周辺の母子が心配と、反原発茨城共同行動の根本さんの紹介で、地元の教職員組合や市会議員の協力で、母乳育児をされているお母さんたちに集まって頂き、母乳の提供も受けました。

母乳検査の結果は、10人全員、ヨウ素もセシウムも不検出で安心できる結果でした。高萩市の空間線量

が大変高かったのは、市内の福島に近い小川ダムにモニタリングポイントがあったことも判明。市会議員の要請で市民が多く住む高萩市街地にモニタリングポイントが移動されたとのこと。

県内では4月にセシウムが微量検出された日立市のお母さんには食事や水を注意してもらい、アップルペクチンを飲んでもらい、先日母乳を再検査に提出したところでした。

現在福島中心に関東圏で150調査を終えており、調査結果は別の機会に報告します。組合員でもご心配



(外部被曝を少なくする)

●地域の子どもたちを放射能から守る

「市民による地域放射能自主調査」

ホット・スポットと言われる守谷市から先行スタート

守谷「調査隊」参加希望総勢30名

7/4、守谷・つくばみらい地区の

理事・総代さんが測定事前練習

- ・7月2週よりグループに分かれて公園や通学路で調査を開始 (3/13立沢公園、3/14松が丘公園集合等々 地区別のお知らせをご覧ください)。
- ・市民による自主測定結果をまとめて、高線量地点に子供たちが入らないよう標識等の設置を市に申し入れ予定。

他の市町村でも地区担当職員、理事・総代さんが連携をとって準備をすすめています。地区別のチラシをご覧ください。



●「脱原発委員会(準備会)」

7/22(金)10~12時 生協本部1F

8月末正式発足に向けた話し合いを行います。参加者募集! 知恵をお貸し下さい。

【7月~8月の催し】

●生産者と協同の大地・牧場再生へ

石岡鈴木牧場見学会(2回に分けて10家族づつ)

① 7月30日(土) ② 8月27日(土) とともに10:00~12:00 現地牧場集合

放射能にもめげずに元気に育っている仔牛たち。やがて親になりミルクを出してくれ、私たちが頂くヨーグルトになります。今年ぜひ顔と名前を覚えて帰りましょう! 放射能対策したトウモロコシ畑。みんなで畑や牧草の放射能レベルも確かめます。畑の地表部は0.1μシーベルトまで低減化(守谷市平均0.5μシーベルト)。汚染されてしまい「ロール隔離」してある牧草も見学します。申し込みは、今週配布別チラシにて。

●2011常総生協活動テーマ「発酵」記念講演会

「放射性物質による被曝と発酵食品の効用について」

”和蔵”代表 片山雄介 さん(蔵の素、いづつワインなどの開発・普及者)

8月6日(土) 10:00~12:00 生協本部1F 集会室

放射能の被害をこうむる環境下で、長期間にわたり生き抜いていく為に、いかに日本の伝統的な発酵醸造文化が有効であるかをわかり易く、丁寧にお話しして頂きます。こちらの参加申し込みも別紙チラシにて。

福島県川俣町山木屋地区「計画的避難地区指定」から3ヶ月

山木屋グリーン牧場 無念の牧場撤収、避難

ほんとうに悔しいです。

お父さんの代から25年にわたって、私たちに自然いっぱいの牛乳を届けてくれた山木屋グリーン牧場高橋さん家族。

5月中の計画的避難命令でしたが、牛たちの行き場所がなくて最後まで残っていましたが、6月末をもって最後の1頭(間もなく出産予定)を残して、牧場を撤収しました。預けていた牛たちも、所有権の問題等があり、結果としてセリによる売却という残念な結果となりました。

現牧場主の高橋健司さん(息子さん)は川俣町の「臨時雇用」で働くことに。お母さんが牧場に残してある1頭にエサをあげるために毎日牧場に通って出産までの最後の世話をしています。



高橋健司さんとお母さん

広大な牧場と牧草地は、農水省と文科省、大学(東大・筑波大)が入って「差し押さえられた」かのように、様々な「放射能対策実験」が行われ、また地下水汚染を調査するために牧場の何ヶ所かに井戸が勝手に掘られ、土木業者が出入りしている。業者は、農水省や文科省から指示を受けて作業しているので、何をしようとしているか聞いてもわからない。



嗚呼、いったい何ということか。あの美しい牧場が・・・。

お母さん「牛と別れる時も、もう涙も出なくなりました。怒る気力もなくなりました。もうなされるまま、流れにまかせるしかない・・・」と。

総代会には「会員さんに”長くお世話になりました”とお礼を言いに行きたい」と言っていたのですが、ばあちゃんの介護、牛のエサやりで組合員に会うことが叶いませんでした。

生協でもできるだけ早く現地に入って、調査している大学関係者とも接触し、牧場での国の実験の実体を把握するとともに、高橋さん親子の気持ちの整理も含めて、牧場再建にどのように支えになれるかをさぐって来る予定です。(大石)

雪をかぶった冬の山木屋牧場



2002年「常総生協生命む食をつくる生産者の会」高橋牧場にて合宿。右から微生物農法の会・長島さん、高橋さん(お父さん故人)、無農薬ぶどうの小林さん、生協大石。

福島県相馬市 見捨てられつつある相馬の浜から立ち上がる

相馬地魚センシンさん 自宅と工場を流されてなお NPOを立ち上げて地域で「朝市」

6月25日(土)、福島県矢吹の大木代吉本店(「蔵の素」の蔵元)の酒米田の草取りを蔵の皆さんと終えた後、相馬のセンシン食品の高橋さんのところへ支援物資(※)を届けました。



相馬センシン食品さんは、塩屋さんを通して「相馬の地魚」でお世話になっていた水産加工会社です。高橋永真社長(震災前)

今回の震災による津波では、工場従業員は無事でしたが、高橋さんは自社工場と自宅を流されました。

その後、高橋さんは、新潟で魚の加工を続けて再起をかけるか、塩屋さんの第二工場を間借りして製造続けるか避難所暮らしの中とても迷いましたが、相馬の浜の惨状を見るにつけ「俺がやらずしてだれがやるんだ！」と相馬に残る決心をしました。

同時に、週末に朝市を開催するNPO「相馬はらがま 朝市くらぶ」を立ち上げ、高齢者中心で経済的に困窮している仮設住宅の方に、格安若しくは無料で食品を頒布する活動をスタートしました。

現在は休漁中ですが、前浜の魚の放射線量検査を県と実施中。当分は相馬の魚は使えないとしても、他から魚を買って来てでも将来的には水産加工を復活させたいというのがNPOの事業目標です。

朝市は当分続ける必要があるのですが、サポートする団体が今後もっと必要とのこと(高

津波後のセンシン食品(下)



コンクリートの屋根が津波で流された相馬漁港(上)



橋さん)。有機の生産者やその他、物資の協力を広く呼びかけることがまだ必要に思いました。(柿崎)

※センシンさんへの搬入支援物資

■やさと米(3/17精米)めぐみちゃん実験田米30kg×3袋、CO谷川美味しい水(6入)28ケース浴用石鹸(3連)10P、スポンジ3連10P、タオル1箱

■保湿クリーム「オービアン」32本(彩生舎より寄付)、ラップ(30入)49ケース、インフルエンザキット5ケース(関西よつばより寄付)

上記商品を、後述「朝市」用に、相馬郵便局裏の地域施設の物置に搬入。



搬入を手伝ってくれた元社員の高橋君(左)と生協柿崎。センシン食品がなくなってしまい現在無職。相馬の浜で生まれ育って出たことがない。ここにいたい、ここが好きと。しかし、奥さんの実家から「放射能浴びせるために嫁に出したわけではない」と言われ悩んでいた。

地域のお墓もことごとく津波で倒壊したままだった。



橋の上にテトラポットが乗るほど高い津波が相馬を襲いました。